

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成29年度病虫害発生技術情報第16号について

イチゴのハダニ類については、12月は平年よりもやや少ない発生量でしたが、1月は平年並にまで増加しています。

今後1カ月の気象予報では、気温は平年より低い見込みですが、気温が上昇するとハダニ類の発生量は急激に増加します。また、現在は1番果と2番果の端境期に入ってきていますが、2番果の収穫が本格化すると、どうしても防除が手薄になり、ハダニ類の増加を招きやすくなります。

ハダニ類に対しては薬剤感受性の低下が顕著であり、多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、早期防除に努めましょう。

技術情報第16号

イチゴのハダニ類について

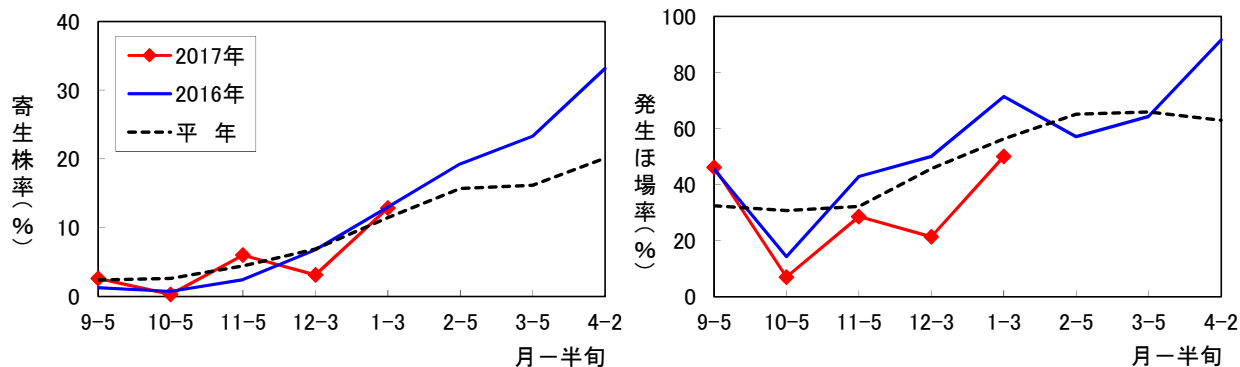
1 対象作物名：イチゴ

2 病虫害名：ハダニ類

3 発生状況

1月3半旬調査の結果、寄生株率は12.9%、発生ほ場率は50%であった。寄生株率、発生ほ場率とも、平年並であるが、12月3半旬に比べて増加が顕著であった。

12～1月のイチゴのハダニ類の発生状況 (%)		
	12月3半旬	1月3半旬
寄生株率	2017年	3.1
	2016年	6.8
	平年	6.9
発生ほ場率	2017年	21.4
	2016年	50
	平年	45.7



ハダニ類の発生推移

5 防除上注意すべき事項

- (1) ハウス内外の除草を徹底し、本虫の増殖源を絶つ。除草した雑草や摘葉した葉はハウス内に放置せず、ビニル袋等に入れて密封し処分する。
- (2) 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底する。なお、防除は摘葉後に行うと効果的である。
- (3) ハダニ類に登録のある薬剤の多くは浸透移行性が乏しいため、必要に応じて展着剤を加用し、葉裏に薬液が十分付着するよう防除を行う。
- (4) 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- (5) 天敵を利用する場合は、天敵に影響が少ない薬剤でハダニの密度を低下させ、薬剤の影響日数を考慮して天敵を放飼する。



ナミハダニの雌成虫および卵



ナミハダニが多数寄生した葉裏

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
 「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

